

協会活動状況

(特別の記載のないものは、すべて会場は事務所において。)

●昭和五十五年十月二十三日(木)

(財)北海道農業近代化コンサルタントより受託し、「積丹・古平地区植生調査」を実施することになった。これは、両町にまたがる三団地(婦美、川上丹腰、古平)約七〇haの植生調査で、総費は一三万円。

●十月二十七日(月)

真駒内環境保全懇話会の市川正良氏が来所し、「北海道自然歩道条例の制定」について協力を要請された。

●十一月五日(水)

「会誌」編集会議

出席者 八木、辻井、山口、小川

原稿の集まり状況について協議

●十一月十七日(月)

「積丹、古平地区植生調査」報告書を農業近代化コンサルタントに提出。

●十一月二十日(木)

常任理事会

出席者 八木、大山、狩野、長谷川、滝口。

「自然保護観察指導員研修会」の具体案について協議し、明日、会場、期日について日本自然保護協会の了承をうることとした。また、二十六日に東京で開催される自然保護議員連盟主催の「日高横

断道路問題に関する現況報告及び説明会」に、本会より会長と滝口常任理事の二人が出席することになった。

●十一月二十一日(金)

前記研修会を常任理事会の内容とおり、道立羊蹄青少年の森を中心とし、七月三十一日(金)より三日間にわたって開催する旨、日本自然保護協会に報告し、了承をえた(道立羊蹄青少年の森は、後志支庁管内真狩村にあり、昭和五十四年度に完成したもので、八十人の宿泊施設も完備している)。

●十一月二十二日(土)

自然保護講座の第一日目、辻井達一氏の「自然環境と人間の生活」と題する講義。受講生は二十一名。婦人文化会館にて最終日まで開催される。

●十一月二十六日(水)

参議員議員会館で開催された前記「日高横断道路問題」に関する現況報告及び説明会」に会長及び滝口常任理事が出席。(会長別記)

●十一月二十七日(木)

「日高横断道路問題」について、環境庁長官を会長及び滝口氏が訪問(会長別記)。

●十一月二十九日(土)

自然保護講座の第二日目、鮫島惇一郎氏の「生命の舞台と生態系」と題する講義。

●十一月二十九日(土)

南北海道自然保護協会と共催で、講演会を函館市内で開催(宗像英雄氏別記)。

●十二月六日(土)

自然保護講座の第三日目、俵 浩三氏の「自然保護の考え方」と題する講義。

●十二月六日(土)

電源開発特が実施している「上熊牛芽室発電所計画に伴う環境調査」の中間報告会が同社北海道支社長室で開催。会長、副会長などが出席し、本会としての考え方と態度について説明。

●十二月十二日(金)

斜里町の「青い海と緑を守る会」の午来会長が来所し、根室自然保護協会とともに「知床国立公園の自然保護について」の要望書を関係方面に提出し、知床横断道路開通にともなう自然破壊の防止について要望したので本会もこれに支援してほしい旨要請があった。

●十二月十三日(土)

北海道自然保護団体連合の代表者会議が自治会館で開催。本会より新妻副会長が出席。

●十二月十三日(土)

自然保護講座の第四日目、左部 勝氏の「自然保護と公害」と題する講義。

●十二月二十日(土)

自然保護講座の最終日(五日目)、中島庄一氏の「自然保護の手段と方法」と題する講義。

●十二月二十日(土)

常任理事会
出席者 大山、狩野、加藤、滝口、長谷川。

真駒内環境保全懇話会より要請のあった自然歩道の件、清掃工場への搬入路の件、また知床国立公園の自然保護の件な

どについて協議。

●十二月二十五日(木)

「石狩川中・下流域における鳥類生態調査」報告書(財北海道開発協会)を提出。

これは、石狩川河口における水渉禽類についての生態調査を主とした報告書である。

●一月九日(金)

今月十七日に開催される「道々士幌然別湖線環境調査」打合せの進め方について主催者の北海道開発コンサルタント協と協議。

本会よりの出席者 八木、石川、辻井、阿部、高畑、進藤。

●一月十六日(金)

「自然生態系総合調査(知床半島)」報告書を道自然保護課へ提出。

これは、本会が昨年度より二カ年にわたって調査をすすめてきた報告書で、先年報告した「日高山系自然生態系総合調査」とともに重要なものであり、道では年度内に印刷物にするようである。

●一月十七日(土)

北海道開発コンサルタント協が主催し、「道々士幌然別湖線環境調査」の打合せが石狩会館で開催された。

本年度の補足調査に加え、二カ年にわたって本会が調査した結果について、出席の道土木部道路課、帯広土木現業所関係者に説明するとともに、取りまとめの方法について協議。

本会よりの出席者 八木、石川、辻井、高畑、高橋、阿部、清水、進藤。

●一月十九日(月)

常任理事会

出席者 八木、新妻、長谷川、狩野、会長が一月二十六日より四月上旬まで不在(インドへ出張)となるので、その間の会の運営について協議。また、不在



陳情書、要望書

意見書、回答文書

知床国立公園の自然保護に関する要望書

H N C S 第二三九号

昭和五十六年一月二十六日

環境庁(自然保護局長、知床国立公園管理事務所長)

北海道(生活環境部長、自然保護課長、網走、根室両支庁長)

営林局(北見、帯広両営林支局長)

開発庁(釧路、網走両開発建設部長)

斜里、羅臼両町長、国立公園協会会長

宛

(社)北海道自然保護協会

会長 八木健三

知床国立公園は、その海岸から山岳に至るまで極めて原始性が高く、我が国の国立公園の中でも特に厳しい自然保護施策が図られるべき地域である。

中は新妻副会長が会務を代行する。

なお、自然歩道の件についてはもう少し検討することとし、「知床の自然保護」については、本会も別記のとおり、関係方面に要望することになった。

加えて「知床を守る一〇〇町運動」は、現在全国的な広がりをみせており、この推進にあたってきた地元住民、自治体の意識の高揚は注目に値するものがある。

しかしながら、先般開通された知床横断道路による一般利用の増大は、二次的自然破壊の拡大へと進むことが想像されるので、これ以上の自然破壊をくい止め、将来ともに厳正に保護していくために次のとおり要望する。

要望事項

知床国立公園計画の策定とそれにもとづく公園事業の執行に際しては、知床の原始性にかんがみ、公園指定時の理念、経過にたち帰り、「原始的な自然環境の保護と維持」を原則とするように留意されたい。

理由

一、横断道路開通後、自家用車利用客の予想外の増大は、高山植生地内への立入り、植物の盗採、植生地内での炊飯、加えて踏圧による自然植生の後退はもろろん、山火事の危険すら憂慮される。

二、この地域に、駐車場、展望台、トイレ、遊歩道などの施設を作ること、直接的な自然破壊のみならず施設周辺における利用客の滞留時間の増大、ひいては過剰利用を招き、ゴミによる汚染など種々の自然破壊を増大せしめる恐れがある。

●日高の自然を守るために

八木健三

日高横断道路をめぐる諸問題については、前にも機会あるごとにのべてきたが、その後これに関する若干の国際的な動きや国会議員らによる会合が行われたので、それらについて報告しておこう。

最初は第二十四回国際地理学会議の北海道見学班の動きである。この会議は四年に一度全世界の地理学者が一堂に会してもつ地理学界最大の国際会議で、本年八・九月東京で開催され、国の内外から一五〇〇名が集った。その後、日本各地に見学旅行班が訪れたが、北海道班は道教育大学旭川分校の岡本次郎、北大環境科学の門村 浩両教授をリーダーとして、九月六日から十二日までの一週間、苫小牧、札幌、旭川、大雪、阿寒、屈斜路、根釧原野、釧路、帯広、十勝の各地域を見学した。

参加希望者ははじめ三十名に及んで、いたが、多くの発展途上国からの人々が参加を取り消したため、わずか十名となったのは残念であったしかしその反面、見学地での説明や討論が充分に行われたのは望外の喜びであった。

地理学は専門分野がかなり広範にわかれていたため、リーダーの他にそれぞれ分野での専門家が案内者に委嘱されたが、九月八日から十一日にかけては植物の伊藤浩司氏（北大教授）、火山の守谷以智雄氏（金沢大助教授）及び筆者が参加し、大雪から阿寒、屈斜路、摩周、根釧原野などの植生や火山や地質の説明を行った。

この班の参加者には、西独マインツ大学のゴルフゼン教授、ルール大学のホッテス教授や、カナダのプリティツシユコロンビア大学のスレイメーカ教授らの著名な学者も含まれ、野外の観察、とくに地形の変化、開発と自然破壊などについては、鋭い眼がそそがれ多くの議論がなされた。

たまたまりーダーの岡本教授をはじめ、門村、伊藤両教授もすべてわが自然保護協会の会員であり、とくに伊藤教授は日高横断道路評価報告書検討委員会の委員長、門村教授は同委員というわけであり、とりわけ日高山脈の自然と道路建設との関係について、われわれと外国人参加者との間にもいくつかの討論が行われた。また十日の夜は釧路市長の招宴で、道東紹介の映画が、北海道のすばらしい自然と、これが次第に失われていく有様

を描きだしているのが、深い印象を与えた。

このような次第で参加者の内からも、「日高を守るために、われわれ外国からの地理学者としても協力しうることがあるだろうか……」という声が出てきた。

その結果、日高の自然とラムサール条約の対象となっている釧路湿原の自然を守るように、北海道知事に外国人参加者から要請文をだそうということになった。釧路湿原の保護に尽力している札幌一郎会員のタイプライターをお借りして、作製された要請文はつぎのようである。

(訳文)

北海道知事 堂垣内尚弘 殿

下記に署名した私ども、第二十四回国際地理学会議北海道巡検班への参加者は、

北海道の自然環境と社会活動とを研究し、北海道の美しい自然に深く感動し、日高山脈は日本でもまれな原始境であることを知り、

また、釧路湿原は世界に誇るべき研究資料であることを知り、一度破壊された自然は再び回復しえぬことを憂い、

原始的な自然は人類共通の財産であることを信じ、北海道知事殿につきのことをお願いいたします。

一、日高横断道路計画を再検討されること。
二、日高の自然を守るため速やかに日高国定公園を設定されること。

三、釧路湿原の主要部を土地改良開発より守られること。

敬具

釧路にて

署名

この文書は早速知事宛に発送されたが、釧路では同日昼ごろ記者会見を行い、当日の団長ゴルフゼン教授（団長は旅行中、一日交替であった）からこの文書の主旨がよく説明された。

このことは道新の記事となり、またNHK釧路局からも放送された。

この後十月二日には米国最大の自然保護団体「シユラ・クラブ」の訪日視察団一行五二名が来道したが、三日には本会と北海道自然保護連合との共催で、一行有志の歓迎会が行われ、相互に自然保護のあり方について懇談した。とくに「シユラ・クラブ」は多年の豊富な経験から、主として自然を道路建設による破壊から守るための方法を具体的にのべてくれたのは有益であった。同会員達も日高道路路については強い関心をよせていた。

国際学術連合(ICSU)の傘下には多数の専門分野の国際連合組織が存在するが、その一つの国際自然保護連合(IUCN)は、自然保護をいろいろの異なった学問分野から学際的にとりあげている中核的な国際組織である。これに対応する国内組織としては、日本学術会議の中に自然保護研究連合委員会があるが、その委員福島要一氏がジュネーブで開催された国際自然保護連合の委員会に出席した際、やはり日高道路問題と日高国定公園

問題が議題としてとり上げられた。その結論として、同連合会長タルボート博士から環境庁・土屋吉彦、北海道開発庁・後藤田正晴両氏あてにつきのような文書が送られた。

(訳文)

私は、ここに国際自然保護連合(IUCN)にとって関心のある事柄、すなわち北海道日高の自然保護についてのべてみたいと思います。

私どもは日本の自然保護団体から、北海道の日高山脈は貴国における重要な原始地域であると伺っています。この地域はあまり破壊が及んでおらず、「固有遺産地域」に値するものと思われま。

したがって私どもはこの地域が国定公園に指定される予定であることを知り、大いに喜びたいと思います。

IUCNはこの決定を支持するとともに、日高山脈が将来開発から除かれるよう勧告いたします。貴下が日高山脈の保全のためにとられる尽力は、IUCN及び世界の保護団体として、心から感謝する次第であります。

一九八〇年十一月十一日

IUCN会長 Leem, Talbot

環境庁 土屋 吉彦 殿

北海道開発庁 後藤田正晴 殿

なお、この文章の写は日本自然保護協会にも送付された。

さらに、十一月二十六日には自然保護議員連盟の主催により、参議院議員会館において、「日高横断道路問題に関する

現況報告及び説明会」が開催された。この連盟は、自然保護に関心をもち国会議員からなる超党派の連盟で、会長は元環境庁長官・大石武一氏（自民）、事務局長は岩垂寿喜夫氏（社会）であり、当日は阿氏をはじめ、藤波孝生（自民）、五十嵐広三、小林恒人（社会）、小平芳平、竹内勝彦（公明）、和田耕作、中村鋭一、木下敬之助（民社）、立木 洋（共産）、柿沢弘治（新自）、江田五月（社民連）、美濃部亮吉（無所属）の十四議員が出席した。これに対して民間の自然保護関係の団体は、北海道自然保護協会と北海道自然保護団体連合が主体となり、日本自然保護協会、日本野鳥の会、世界野生生物基金、日本山岳会、全国自然保護連合など多数の団体から、会長や事務局長ら代表三十名が出席した。

この席上では、地元から出席した井手教授と私、滝口氏、田中さんから日高道路の計画と問題点、自然保護とのかわりなどを説明。これに対し各議員からいろいろの質問があり、美濃部氏の「九州の志布志湾の埋め立ての如く、極めて問題の多い乱開発」や、大石氏の「どうみてもこの道路は必然性がない」といった発言をはじめとし、道路建設に対する批判的な意見が相ついだ。

自然保護議員連盟の国会議員がこのように結集したのは、一九七二年、大雪縦貫道路に関して反対の会合がもたれてから以来のことという。

なお当日、環境庁長官・鯨岡兵輔氏は所用のため欠席されたので、私どもは翌二

十七日午前、大石氏とともに長官を環境庁に訪ね、事情を説明し強く要望した。これに対し長官は、「趣旨はよくわかった。国定公園指定の方は来年早々にも話を進める」とのべられ、私どもに明るい展望を与えてくれた。

これらの国の内外を通じて行われている力強い支援によって、日高の自然が守られることを期待したい（会長）。

◆「北方圏の自然とくらし」講演会 宗像英雄

標記を演題とする辻井達一先生の講演会が、十一月二十九日、北海道新聞函館支社の講堂を会場としてひらかれた。

地元の私にとつては滅多にない好機とばかりに共催ということで便乗させていただいたのであるが、参加者がわずかでは、と正直なところ心配であった。ところが予想を遙かに越えて一〇〇名を突破、会場満杯という盛況、その上、嬉しいことに、先生のお話はさすが満場に深い感銘を与え、しばし香り高い余韻を漂わしてくださった。

北方圏の定義や範囲、その自然についてのわかり易い説明にはじまり、北方圏諸国の人々がその自然の厳しさを当り前のことに受けとめ、いかに順応し、いかに活用して豊かな生活を築いているかを、沢山の美しいスライドの解説に、機智にとんだユーモアをまじえながらのお話で満場を魅了してしまい、私どもは、明日の道民生活は？本道的文化の方向は？という問題について幾つもの示唆を、

お話の中からえることができたと思う。

本州を中心として物を考える限り、本道はたしかに日本の最北端、積雪寒冷の暮しにくい土地である。そして歴史的過程があるにせよ、政治経済から流行ファッションにいたる総てが中央依存であった。この南方志向がある限り自主独立の精神は育たない。雪が半年間も大地を被り本道、この自然を忌避することなく、積極的に取り入れてこそ、本道独自の生活文化を創造することができると思う。

その方途は北方圏諸国の人々の暮しから学ぶことができるのではなからうか。

講演会の翌日、二、三の参加者から電話があり、「非常に感動した。この種講演会をしばしば計画してほしい」という嬉しい反響。道協会ならびに辻井先生に対し、地元の一同行に代って厚くお礼申し上げる（南北海道自然保護協会々長）。

●七飯町の加入

団体会員として七飯町が本会に加入した。同町は、風光のすばらしい大沼国定公園を擁し、道南の最高峰横津岳を背にし、自然保護を大切にす町として知られている。

なお、同町について数カ町村の加入が期待されている。

●会員の異動

（入会）青田勝男、赤城 泰、大沢 肇、加藤 清、加藤力也、小高達雄、齋藤則夫、佐藤正夫、真田時藏、白沢久一、嶋谷之臣、高森通夫、谷本光典、成瀬廉二、原田和幸、三吉 明、山内栄一、矢口以文、七飯町、中央電気工業㈱

（物故）矢野捨松氏がせいで去された。謹んでお知らせする。

◆第十一回全国自然保護大会

例年のとおり本年も次により開催されます。大会のメインテーマは「自然は掠奪を許さない」ですが、自然を掠奪してはばからないものへの闘いを宣し、自然を掠奪しない文化を築こうとする決意を示す大会にしたいものです。会員の方も多数参加して下さい。

期日 六月六日（土）七日（日）

会場 伊豆長岡 富士見ハイット
内容 総会、記念講演、分科会
会費 参加費 二、〇〇〇円
宿泊費 六、〇〇〇円（予定）

◆出版物のお知らせ

●「四季の自然」R・アダムズ著、岡部 牧夫訳の英国の四季の自然を美しい風景画で綴った本。森林、田園、水辺の三箇所をとりえてそれぞれの季節の移り変りを示して楽しんで。学問的説明も十分。評論社刊。一、五〇〇円。

昭和五十六年二月十六日発行

〇六〇 札幌市中央区北一条西七丁目
広井ビル五階

発行所 社団法人北海道自然保護協会

電話 〇二二六（一六五八六代）
〇二二五（一五四六五直）

郵便振替口座 小樽 四〇五五
北海道新報銀行本店 〇二七五九
北海道銀行本店 〇一四四四

発行人 八 木 健 三

印刷 札幌印刷株式会社